

## 1. 研究課題名

日常生活における満足度向上と CO<sub>2</sub> 削減を両立可能な消費者行動に関する研究

## 2. 研究代表者氏名及び所属

工藤 祐揮 ((独)産業技術総合研究所)



## 3. 研究実施期間

平成 20～21 年度

## 4. 研究の趣旨・概要

地球温暖化防止に向けて、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出削減につながる消費者のライフスタイルの変更に期待が高まっている。無駄な温室効果ガスを減らす生活行動を消費者が自発的に行うためには、温暖化防止効果を意識させることよりもむしろ、それを行うことによって生活の中で何かしらの価値を見いだすことができるような行動を提案していくことが重要である。

本研究課題は、ライフスタイルによって異なるさまざまな生活ニーズに応える行動の二酸化炭素排出量の削減可能性を検討し、日常生活において自発的に行われることが期待され、かつ温室効果ガスの削減につながる行動を抽出して消費者に提案するとともに、その実現にむけて行政が取り組むべき課題を提示することを目的とする。

まず、居住地や年齢、職種などによって異なるさまざまなライフスタイルで、現在の生活行動に代わる新たな行動（代替行動）を行った場合に発生する二酸化炭素排出量を算出する。このとき、行動を行うことによる直接的な二酸化炭素排出量の削減効果だけでなく、支出額や行動に費やす時間の変化によって生じる波及的な行動（リバウンド効果）も考慮する。また、これらの代替行動が消費者にとってどの程度の魅力があるか（代替行動に対する価値）を分析し、魅力が大きく温室効果ガス削減が可能な代替行動を提案する。一方、魅力が小さく受け入れられにくい温室効果ガス削減効果の高い行動については、それがなぜ受け入れられないのか（阻害要因）を明らかにする。さらに、代替行動に関する情報提供のあり方に着目し、どのような情報を提供すれば、消費者が温室効果ガス削減につながる代替行動を行おうと考えるのかについて、インターネットブログの分析などを通じて明らかにする。

これらの検討を通じて、消費者が自発的に取り組めると期待できる温室効果ガス削減につながる行動を提案するとともに、行政が消費部門に対する地球環境対策を推進する際に、優先的に取り組むべき課題を明らかにすることが期待される。

## 5. 研究項目及び実施体制

- ① 生活行動に対するニーズと CO<sub>2</sub> 排出情報の解析 ((独) 産業技術総合研究所)
- ② 生活行動に対する受容性と実践阻害要因分析 (芝浦工業大学)
- ③ 生活行動の CO<sub>2</sub> 排出情報提示に対する反応性分析 ((独) 産業技術総合研究所)

## 6. 研究のイメージ

RF-087 日常生活における満足度向上とCO<sub>2</sub>削減を両立可能な消費者行動に関する研究 (FY2008-2009)

